

病院のコスト適正化？

病院経営に関わっているわけでは全くないが、厳しい経営状況の話が絶えず飛び交っている。昨年、打診も何もなくコスト適正化委員会なるものの委員長に指名されていることが分かり、コスト削減をはかって経営改善に貢献しなさいという見えない意思に従い行動することになった。コスト意識は持つようにいわれてはいるものの、「コスト削減の仕方」について教育を受けたことは一度もない。取り組んできたのは疾患に対する治療法であり、手術手技であり、いかに患者に貢献していくかのみに集中していたといっても過言ではない。治療に要するコストは優先順位のリストにすら載っていない状態であった。42ある国立大学病院のうち32病院は2024年に経常赤字で、全体の赤字額は260億円に達するという報道もあった。赤字経営は筆者の所属施設に限ったことではないのである。

二宮尊徳の言葉として知られるものに、「道徳なき経済は犯罪であり…」がある。最初に道徳であり、事業はその後に存在すべきという考え方で地域振興に尽くされた。非常に分かりやすく、倫理観を欠いてお金儲けのみに走ることが社会的に受け入れ難いのは当然であろう。これに「経済なき道徳は寝言である」という言葉が続く。なるほど、どんなに立派な理念があったとしてもお金がなければ実現できないわけである。

さて、これを医療にあてはめて考えてみると…である。患者の治療のためにはどれだけのコストがかかっても仕方がない、人の生命は何よりも尊いのだという考えのみでは、収益バランスがマイナスに大きく振れる可能性がある。しかし高度医療でのみ助かる命を目の前にすれば、コストを度外視した医療も医師としては選択してしまう。これまで持っていなかった「経済的」視点で過去を見直してみると、自分自身の倫理観でとってきた選択が果たして患者・病院、双方に対して実是不利益であったことはなかったのかと疑心暗鬼にもなってくる。

医療コストの増大は光熱費の増加、物価高騰に伴う影響もあるだろうが、こういったものはどうにも医師には対応できない。診断群分類包括評価（DPC）制度に基づく、同じ結果が得られるのであればできるだけ医療材料コストを低く抑えて手術を行う、検査も必要最低限にということになる。ここは外科医として工夫できる余地がありそうである。ただ、コストの話ではないが、順調に経過している患者の入院期間を不必要に延ばすことはどうなのだろうか。病院収益向上のために必要のない入院を増やすこと、これは「道徳なき経済」にならないだろうか。病院経営を守るための自己防衛だと正当化されるのだろうか。コスト以外にも多様な項目に対して心を巡らすようになってしまっている。

自由診療の美容形成外科への就職を臨床研修後に直接目指す「直美（ちよくび）」が増加の一途であるが、保険診療下での病院経営に限界を感じての行動であれば、あながち否定もできないものだと感じている。国民皆保険制度による、「安い医療費で高度な医療の提供」という「理念」。これが寝言と見なされることなく、医療体制が維持できる国であってほしいと切に願う。

（山下 裕 玄）

顧問 森岡恭彦 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏 名川弘一

亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史 佐野 武

編集 長谷川 潔 船橋公彦 山下裕玄

臨床雑誌 外科 第87巻 第4号（4月号） 2025年4月1日発行（1097号）

編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目42番6号 小 立 健 太

印刷所 東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号 日経印刷株式会社

発行所 ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6（営業）TEL 03-3811-7239：振替口座 00120-1-149 番
株式会社 南江堂 （編集）TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 <https://www.nankodo.co.jp/>

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所：☎ 113-0033 東京都文京区本郷5丁目24番6号本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036